

杉床のうつわ

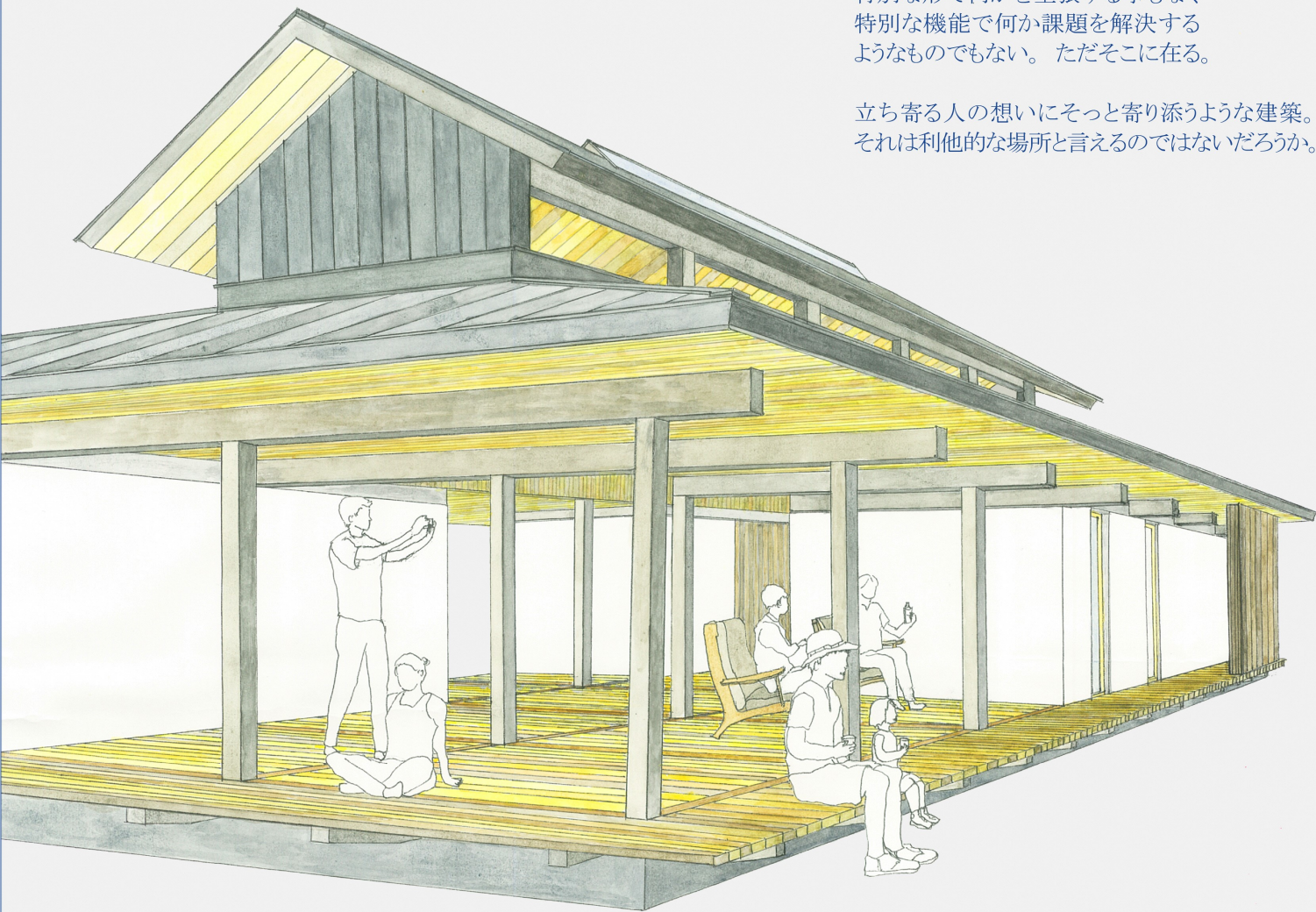
■ 寄り添ってくれる場所

建物の過半が半屋外のコミュニティハブの計画。

建築はうつわのように在るべきではないだろうか。それ自体は決して主役になろうとせず盛られるものを引き立てるような存在。

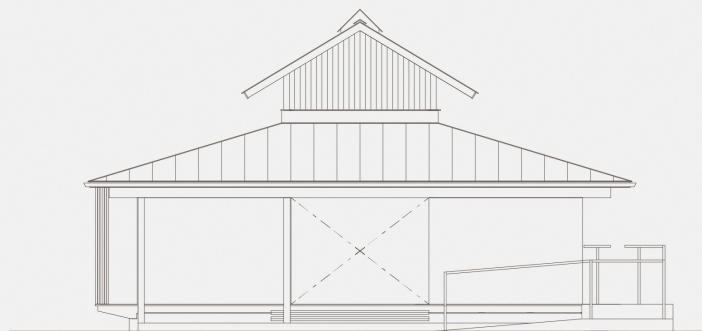
そこには床と屋根が在るのみである。特別な形で何かを主張する事もなく特別な機能で何か課題を解決するようなものでもない。ただそこに在る。

立ち寄る人の想いにそっと寄り添うような建築。それは利他的な場所と言えるのではないだろうか。



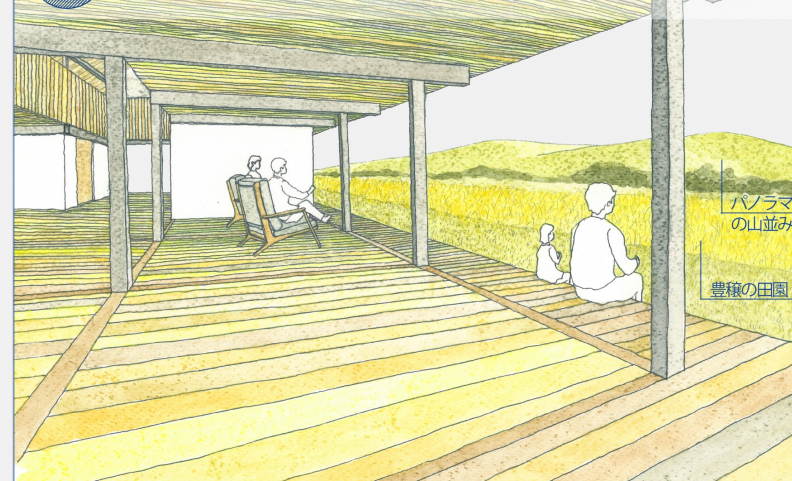
都市計画にて田園都市を方針としている京田辺市での計画。人口は増加傾向にあり、新たに作られていく町と既存の農地が共存したまちづくりが目指されている。新しい町と人だからこそ地域の繋がりやその土地への愛着が重要ではないかと考えた。計画地は宅地と農地の境に位置する公園のそば、周囲は田園、東に公園駐車場と南北に通る緑道、南に幹線道路がある。地域の公園利用者や近隣の農家、その他、緑道を散歩・ジョギングをする人が立ち寄る事を想定している。田園風景を活かした半屋外空間の計画。

用途 地区集会所 地上1階	耐火構造 屋根	外壁：準防火性能 (告示1362号) アルミニウム亜鉛 めっき銅板（不燃材） リシン吹付 杉小幅板	区域区分 敷地面積 建築面積 建築率 延床面積 容積率	市街化調整区域 495.00 m ² 163.68 m ² 33.07 % < 60 % 197.95 m ² 39.99 % < 200 %
高さ 4,835 mm 最高高さ 6,010 mm 構造 木造 RCベタ基礎				



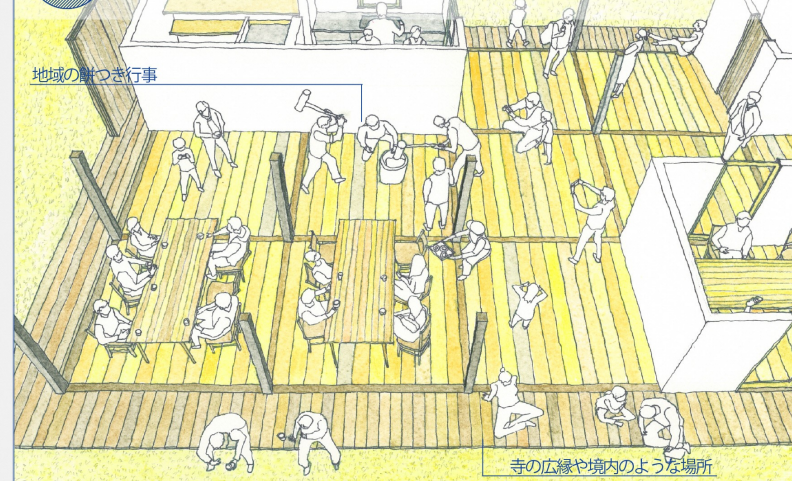
想

すっきりとした床・柱・軒は風景を美しく切り取る「フレーム」となる。故郷を想う事ができる場所。



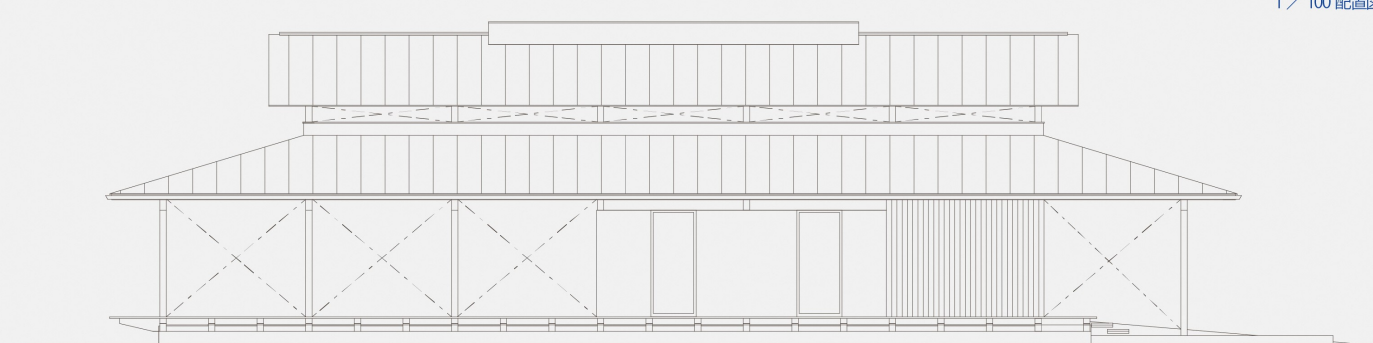
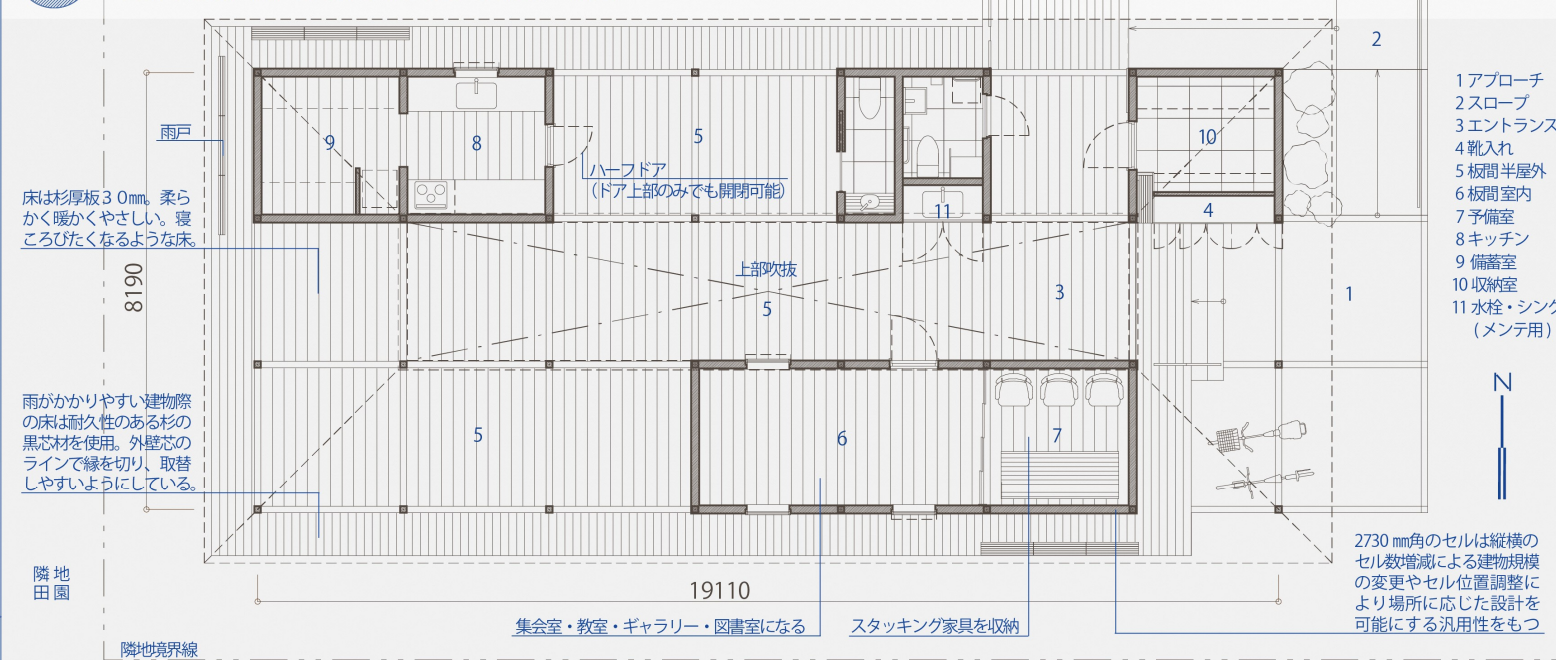
集

広々とした床は人が集まり出会う「ハブ」となる。行事や交流の拠点となる場所。



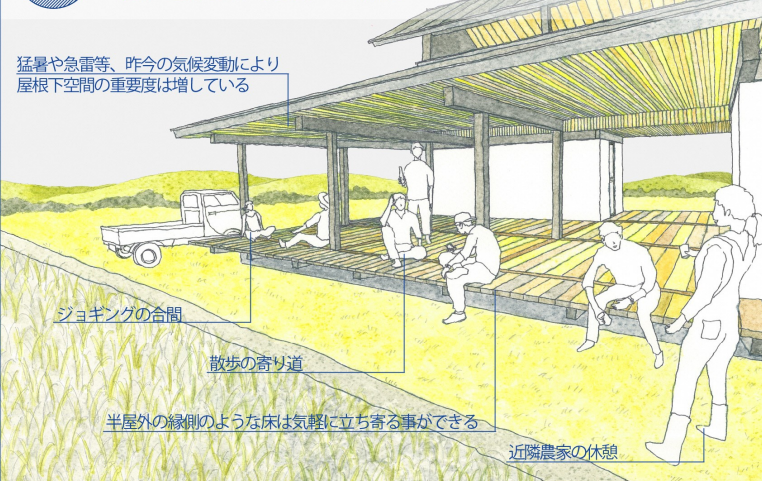
作

2730mm升目の明解かつ冗長性のある平面は将来的な用途変更に応じた増改築を可能にする町の「ツールシェッド」となる。地域の特性に合わせて作るそこできちんとありえない場所。



憩

大きな屋根は夏の陽射しから身を守る「シェルター」となる。疲れた体を休める憩いの場所。



継

断熱された天井と床は次世代へ継承する町の「レガシー」となる。改修が容易で持続可能な場所。

